第４章　寺院の用途転換に関する提案

本章では、第３章での長岡地域の寺院に関する考察から、寺院建築の用途転換を提案した。

寺院建築を用途転換する目的としては、景観を継承していくことの意味を挙げた。そして、従来の文化財としての建造物保存ではなく、社会的に地域の景観を保存していく仕組みをつくる方法のひとつとして、寺院建築の用途転換がどのような役割を果たすかを述べた。

また、用途転換後の利用方法や維持管理方法についてを検討し、「日替わり公共サービス」との連携を提案した。

さらに、上記の議論をふまえて、寺院建築の用途転換のモデルケースを提案した。長岡地域にある寺院を取り上げ、平面計画、構造計画、利用形態の提案などを行った。

4.1　寺院の用途転換

a. 寺院とその景観を継承することの意味

今後，寺院の数が減っていくという予測は、第2章、第３章で確認された。しかし同時に、都市景観の中で寺院が担保してきた価値や、施設としての寺院の遍在性もまた明らかになった。そこで、使われなくなった寺院を、景観的に残すべき部分は残し、必要に応じて改修・改築を施した上で、新たな用途へと再活用していくことを提案する。

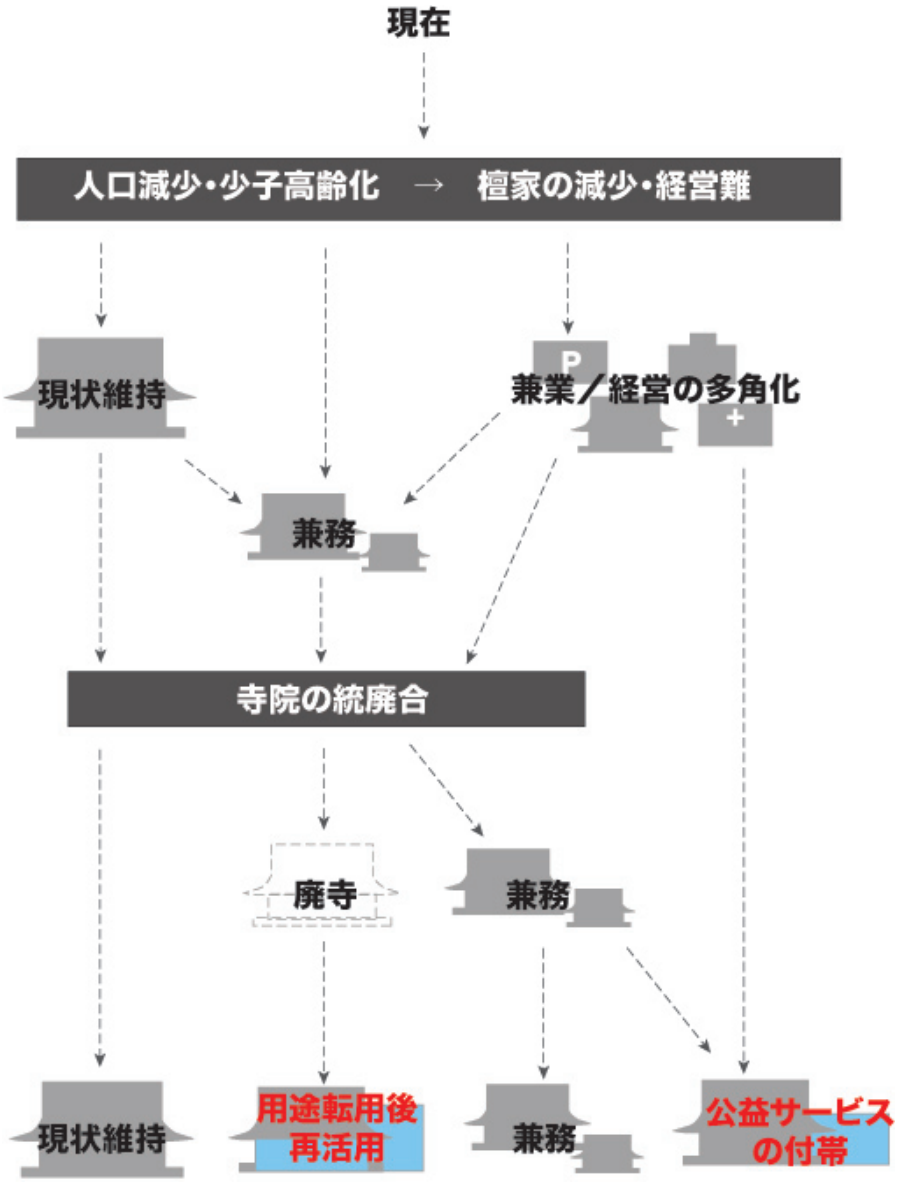
第３章で明らかになったように、長岡地域では寺院は大概の地域に１つないし２つ存在する。また、だいたい200～300㎡の空間と、それを取り囲む境内空間を有している。これらの空間を地域に開放し、必要に応じた用途に転換して利用する。例えば、簡単な医療サービスが受けられる施設や、地域コミュニティのための食堂などに用途転用することで、地域に暮らす交通弱者の生活の質を向上させることができるだろう。

従来は、文化的価値を認められた建築物や景観のみが、選定された後に公的補助などを受けて保存されてきた。しかし、生活環境自体を受け継いでいくことや、どこにでもあるような風景を、社会的に継承していくような仕組み、考え方は、まだ発展途上である。特に、「地域の生活環境の保全」「地域共通の価値観」などの観点から景観を整備することは、都市の再開発や再編成の際に同時に考えねばならないことである。

寺院のある風景は、古く長く親しまれてきたものである。また、周囲の街並や自然環境と関わって、その土地独特の景観をつくりだしてきた。寺院のある景観を残すということは、その土地が作り上げてきた空間文化を引き継ぐということでもある。つまり、寺院の用途転用は、歴史や文化、生活の断絶を最小限に、都市を再編していく手法と言える。

廃寺になった寺院はもちろんのこと、檀家の減少による経営難の寺院や、寺の統廃合により滅多に使われなくなる寺院などが、用途転換の対象である。その際、宗教法人が連携して整備し新たなサービスとして地域に開放していくか、公的機関や民間が買い取って新たな事業の拠点とするか、といった維持管理の方法が考えられる。

下の図は、寺院が将来たどるシナリオを予想したものである。人口減少と少子高齢化により、檀家数が減少すると、寺院は経営難を迎えることになる。その段階では、現状の経営を続けていくことの出来る寺院、他業種を兼業することで経営を成立させる寺院、そして一人の住職がいくつかの寺院を経営していく兼務の形態をとることが、考えられる。寺院の統廃合が行われた結果、現状を維持する寺院、兼務によって成立す寺院の他に、公益サービスを新たに展開する寺院と、廃寺となって引き取られた後に用途転換される寺院の登場が予想される。



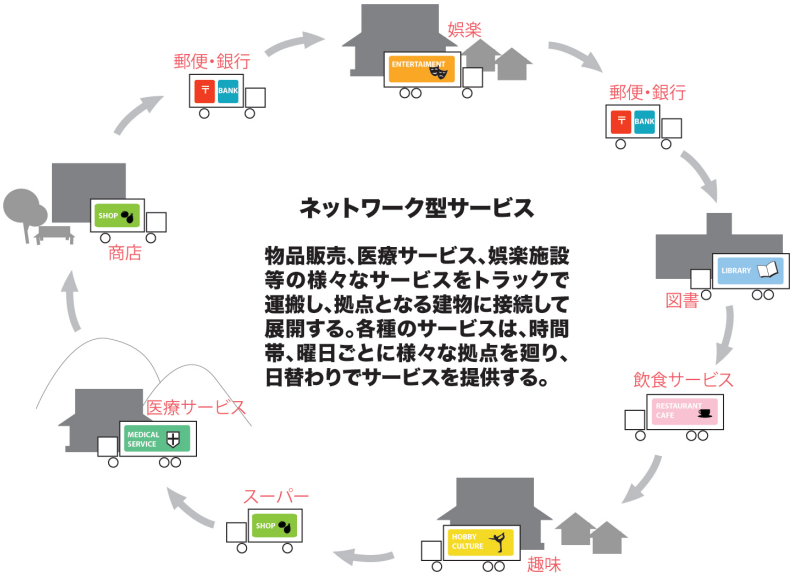
寺院の将来―シナリオ予想図

b. 日替わり公共サービスとの連携

本研究室では、郊外地域や中山間地域に対する「日替わり公共サービス」の提案を行っている。これは、郊外地域や中山間地域に、日替わりで医療や簡易郵便、商店などの生活に必要なサービスを提供する仕組みである。日替わり公共サービスを行うために、各地域に拠点をつくり、それらを必要機能を積んだトラックが巡回する。必要サービスは、どこの拠点でも簡単に展開され、かつ移動が可能なように、トラックに積載できるユニットの中に組み込む。

この提案の背景には、郊外地域や中山間地域では過疎化により地域内の公共サービスが維持できなくなる、といった傾向がある。また、人口減少に伴い、廃校になった学校や閉店した商店、檀家が減り住職もいない寺、ほとんど使われることのない集会施設など、使われなくなった施設が増えていく。そうした一方で人口減少や環境配慮に基づいて都市のコンパクト化政策が進むと、既に過疎化した地域は、将来の非市街地として位置づけられ、高齢者や社会的弱者が取り残されてしまう可能性が懸念される。そうなれば、郊外や中山間地域は自動車がなければ陸の孤島になってしまい、しかし自動車を保有できない、運転できない、あるいは運転が危険な高齢者が多く生活するという矛盾を抱え込むことになる。

このような地域の生活の質を維持するために、必要なサービスを低廉な費用で提供する方法が、日替わり公共サービスである。毎日必要とはしないが無くては困る公共サービスを、自動車で必要機器と係員を運び、空いた建築の空間を利用して行なう。同種の悩みを抱える集落や中心部とサービスを共有することで運営のコストを下げ、より広い範囲の住民の生活の質を維持することが期待されている。



日替わり公共サービスのイメージ

c．地域全体計画

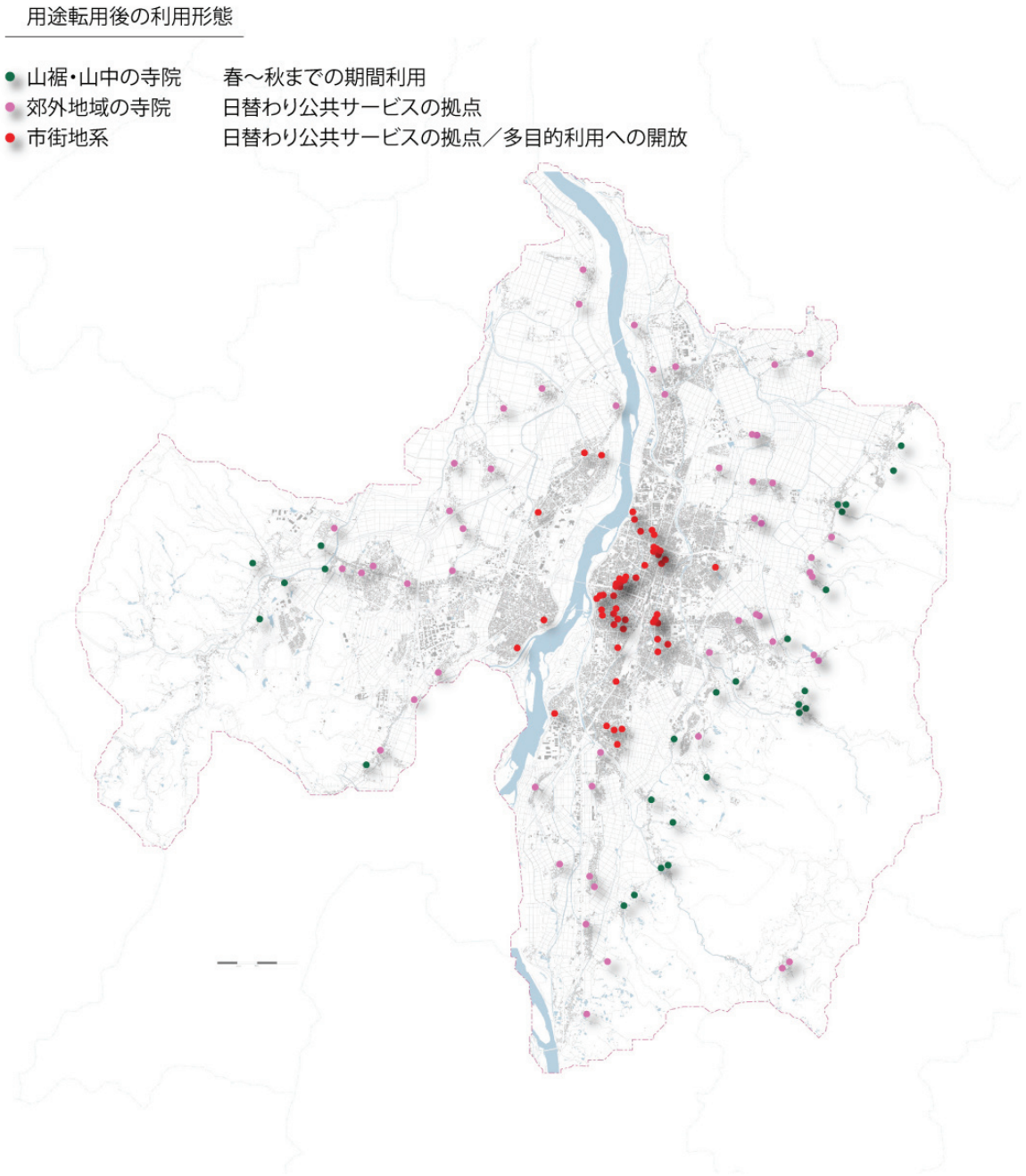
長岡地域の寺院が、立地によって3つ―市街地・郊外地域・山中に分類されることは、3章で述べた。寺院の用途転用の際、地域全体ではどのような計画とするのかを、立地から予測する。

まず、市街地に立地するタイプの寺院は、一年を通して頻繁な利用が想定される。前述の日替わり公共サービスの拠点として使用される。その他、地域の会合やイベントへの会場貸し出し、音楽練習場所、碁会所、喫茶店、など、近隣コミュニティーの中で必要とされている機能を提供するなどが考えられる。市街地では、道路に消雪パイプが整備されていることが多く、積雪時もアクセスが可能である。

郊外地域に立地する寺院は、その地域のコミュニティーの要としての役割を果して来た場合が多い。また、近隣に檀家が多く居住していることも一つの特徴である。3章でみたように、各集落の施設分布をみると、病院の分布が少なく、また商店も種類や数は中心部に比べると少ないことがわかっている。そこで、日替わり公共サービスでそれらの機能を代替し、寺院はその拠点として利用されることを想定する。また、改修・改築時に構造補強を施せば、地域の防災拠点となる。

山の中に立地する寺院は、上記の寺院らに比べるとアクセスの面で不利である。特に、冬の積雪時には、利用できない可能性が高い。そこで、これらの寺院は春から秋までの期間限定の施設とする。この立地の寺院は、桜の名所であったり、近くに史跡があったり、山の散歩道や運動施設などの近隣であったりすることが多い。そこで、日替わり公共サービスよりは、レジャー施設として、近隣スポットと連携しての利用形態が想定される。森林公園のレストハウス、宿泊施設、アウトドアスポット、などである。

立地による用途転換後の利用形態



4.2　寺院の用途転換—提案

ケーススタディーとして、長岡市乙吉町の曹洞宗寺院について、用途転換の提案を行う。

寺院の概要

名称：龍穏院

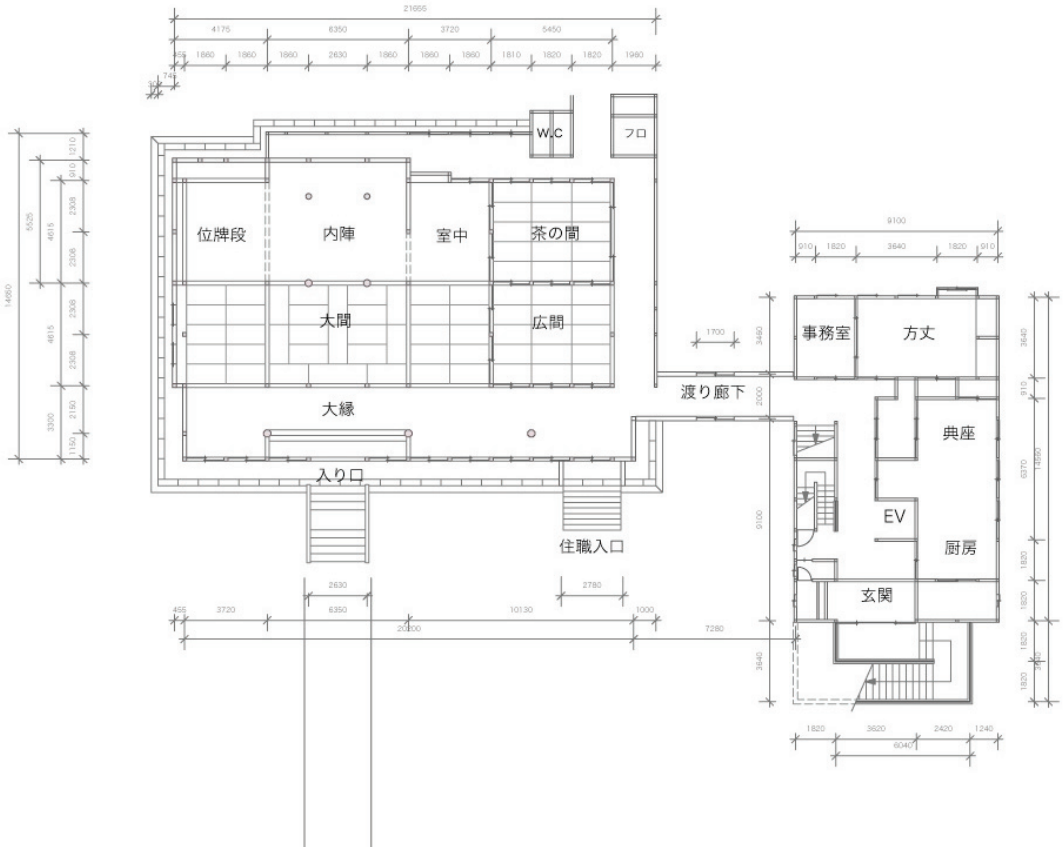
所在地：長岡市乙吉町3316

長岡地域の東部、乙吉町の山中に立地する寺院である。建立は1447年、源義家公の若宮供養のため、真言宗寺院として建てられた。その後に禅宗寺院に転向し、鬼児島弥太郎の命によって現在の場所に建てられた。（建立や歴史の詳細はp.72のヒアリング参照）

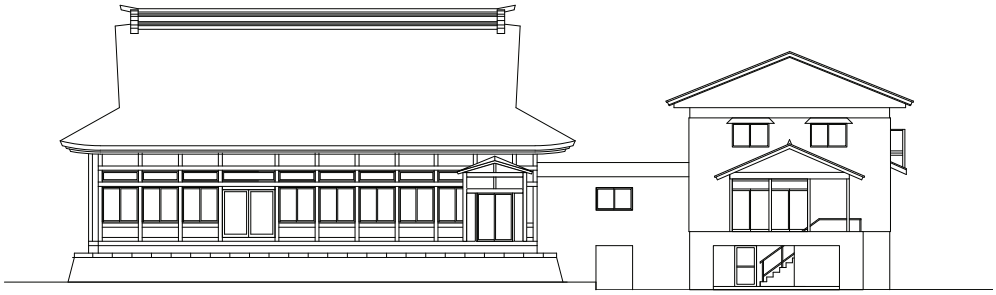
現在の本堂は、1745年に建てられたものである。当時の大工は三仏生の細貝新八、新保村甚五右衛門である。その後、昭和11年、35年に本堂の一部が改修され、平成元年には屋根が瓦葺きから銅板葺きへと変更され、基礎の補強が行われた。2004年の新潟県中越地震の際には、本堂の柱が折れる、参道の石段が崩壊する、などの被害があった。

昭和57年から59年にかけての「新潟県近世社寺建築緊急調査」では、一次調査から三次調査まで行われた結果、長岡地域において近世社寺建築の特色をよく表しているとの評価を受けている。

平面は8間の方丈形式で、西向きである。桁行63.55尺、梁間45.35尺の入母屋造である。かつては方丈、室中には二階部分があったため、現在でも天井が高い。大間前の大縁には、八角柱が3本立っている。また大縁上部には雲形の装飾の支えがついている。



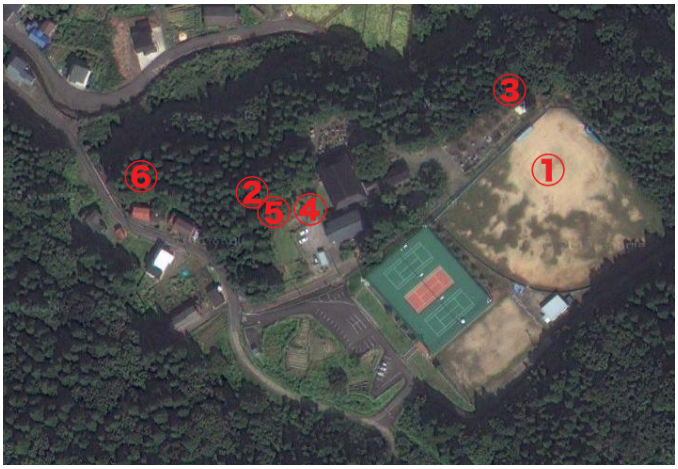
現在の本堂、庫裏、平面図



現在の本堂、庫裏、立面図

立地

乙吉町のはずれに位置している。山の中ということもあってアクセスは容易とは言いがたい。長岡中心部からは、車で15分程度の距離である。乙吉町までのバスは、本数は少ない。檀家数は100軒ほどで、年間寺院を訪れる人の数はそう多くはない。しかし乙吉運動広場が隣接しており（元々は当該寺院の敷地であった）、また付近に乙吉城跡などがあるため、近隣エリアを訪れる人は多いと思われる。



敷地周辺　航空写真

①乙吉運動広場 野球場

②山門

③鬼児島弥太郎の墓碑

④本堂

⑤参道から本堂をみる

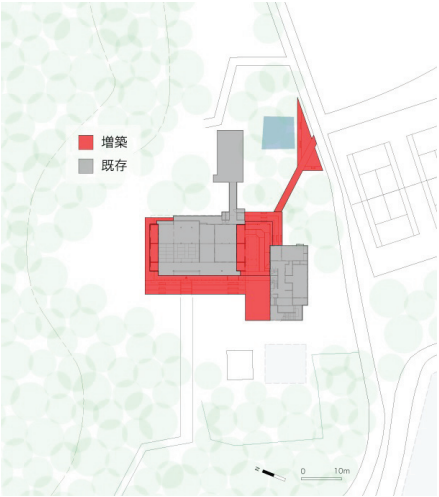
⑥石段を登る

設計コンセプト

1．寺院本堂の外観や景観的特徴を損なわないようなデザイン
2．耐震補強を兼ねた構造とする
3．本堂内に日替わり公共サービス等、多目的利用のスペースを設ける
4．用途転換に伴う動線を計画

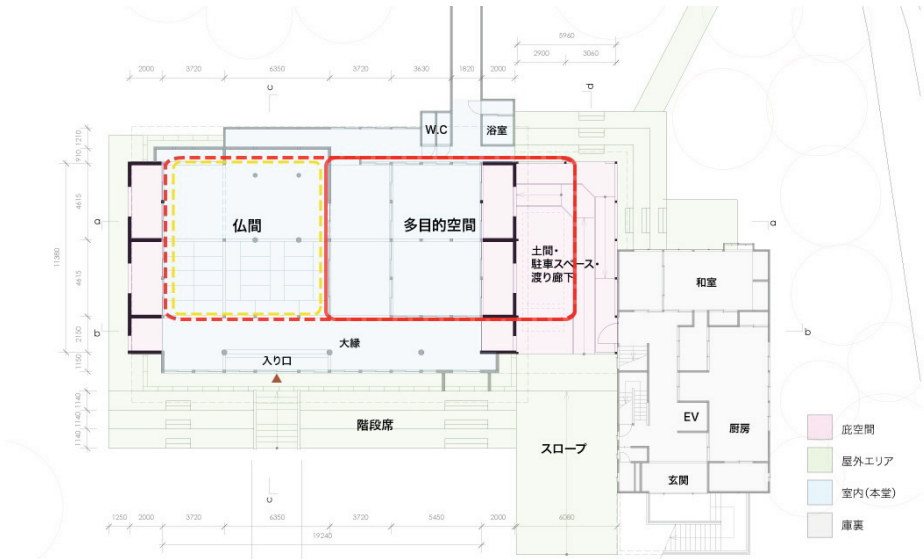
平面計画

本堂と庫裏の渡り廊下部分を改築。2つの建物をスロープでつなぐ横動線と、運動場と境内をつなぐ縦動線を通す。屋根をかけただけの、軒下空間は搬入搬出や送迎の車を止めることが出来、雨や雪の時でも使える外部空間である。



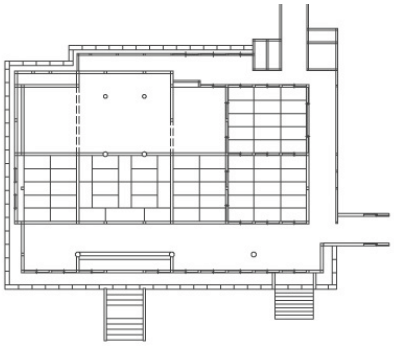
また、本堂前の階段周りには階段席を設置し、本堂から本堂前の庭まで一体となって使えるようにする。散歩やスポーツに来た人が休憩出来、庭でのアクティビティ（BBQ、花火、犬の散歩、etc.）も行うことが出来る。

本堂内部は、基本的に意匠変更は行わない。内陣と位牌段はそのまま保存し、大間の一部とともに仏間としても使えるようにしておく。室中、広間部分は板張りとし、日替わり公共サービスのユニットが展開する等、多目的空間とする。仏間と多目的空間は仕切りを取り払うことで一つの空間として使用することも可能である。

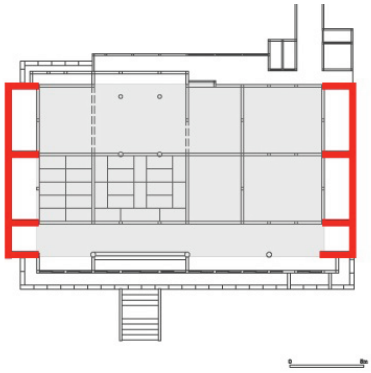


構造計画

軸組木構造の本堂に対し、外側から鉄骨フレームによる補強を行う。三角形のフレームを駆体の横架材と接続し、外側から軸組を固定する。また、既存の軸組に足りない荷重耐力を外部の鉄骨フレームで負担する。

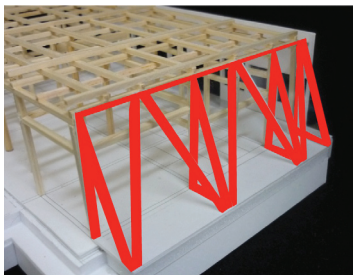


既存本堂ー軸組木構造

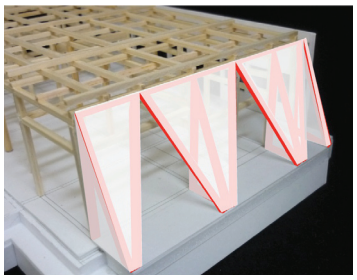


軸組木構造＋鉄骨フレームによる補強

寺院の特徴的な外観を損なわないことと、大屋根の下に収まるデザインとして、三角形のフレーム、及びK型ブレースを採用する。ブレースに沿って壁と開口を設け、縁側のような外部空間とする。



三角形のフレームで、外部から構造を補強する



フレームに沿って壁と開口を設ける

寺院の用途転換の設計を行うにあたっての、構造補強の検討過程について説明する。

右の図1から3は、文化財保護事業で採用されている、鉄骨のフレームによる補強である。250角程度の鉄骨柱を土台から小屋組まで通し、小屋の中で桁や梁をおさえ、建物全体の変形を防ぐ方法である。既存建造物と異なる大きさの部材を用い、それが軸組からずれた線上に配置されることで、構造補強と共に既存建築と新規補強部分の対比を明確にしている。既存部分には手を加えず、新しい部分はオリジナルな部分と区別をするという、文化財保護のオーセンシティ―にのっとった方法である。

この方法を龍穏院のケースに応用した結果、図3のように、内部空間に余計な構造物が挿入されることで、本堂の大空間を生かすことが難しくなると判断した。

そこで、内部の構造及び天井仕上げや装飾、仏具などを保存し、外部には新たな構造体を設置して構造補強を行うことにした。その際、屋根や小屋組との取り合いと、外観に対して最小限の変化であることを目的に検討を重ね、三角形のフレームを採用した。

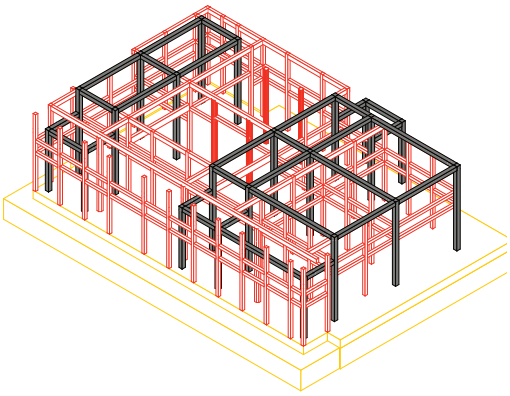


図1. 鉄骨フレームによる補強案

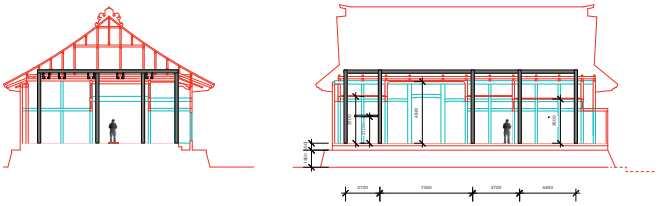


図2. 鉄骨フレームによる補強案ー断面図

図3. 鉄骨フレームによる補強案ー模型内観

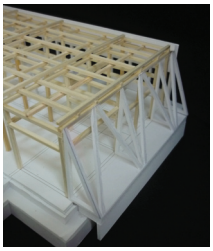
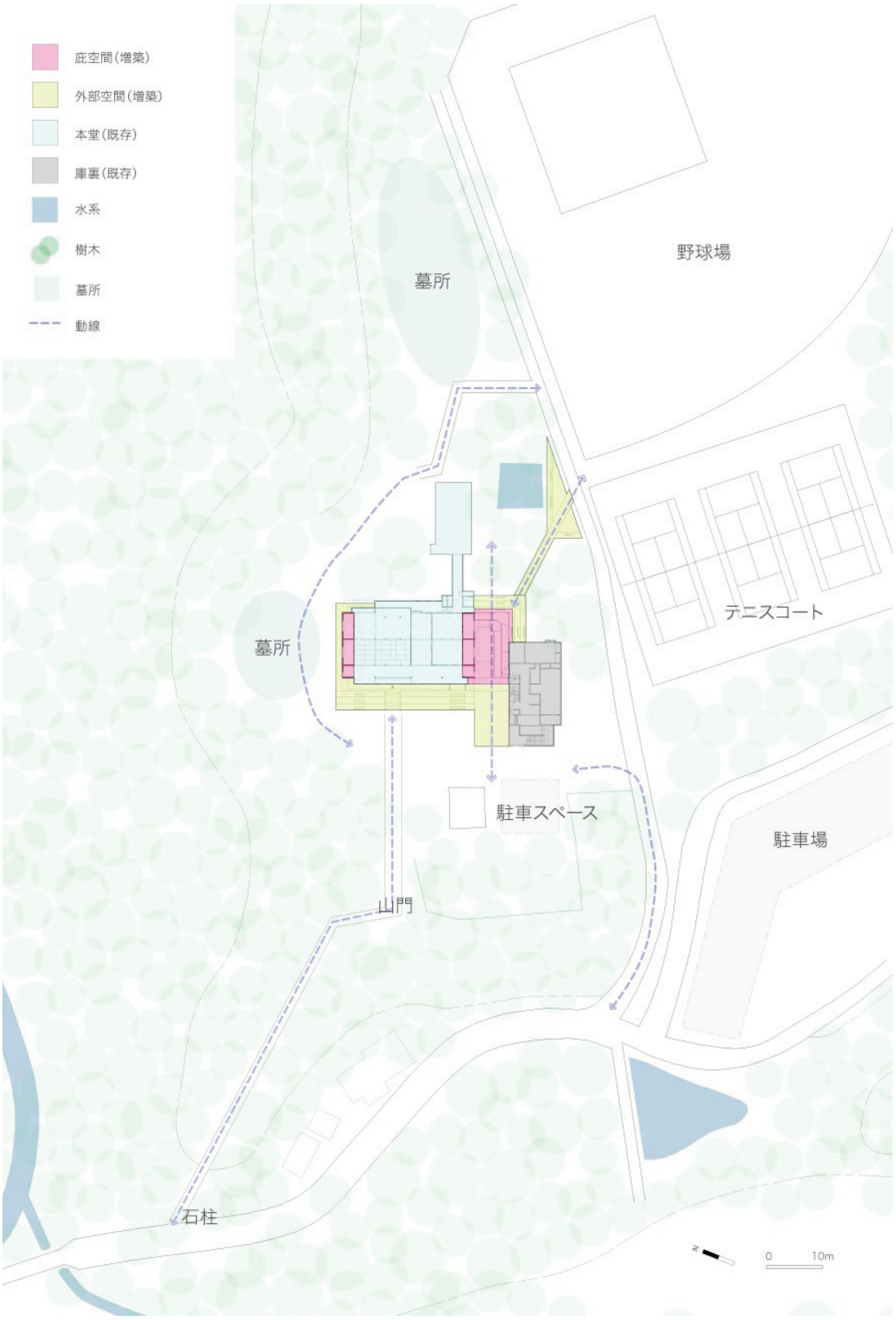
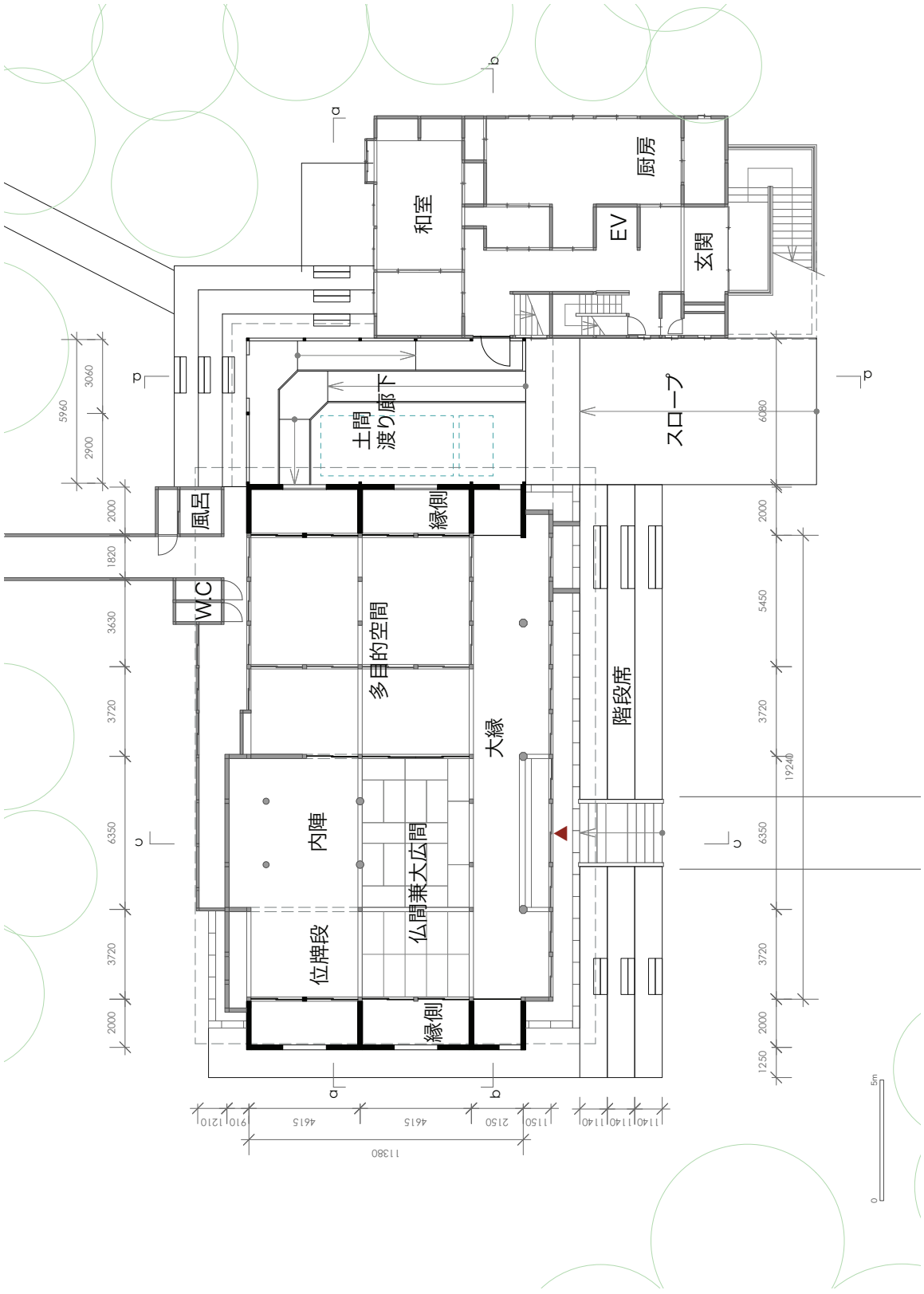


図4. 最終案ー三角形フレームによる補強

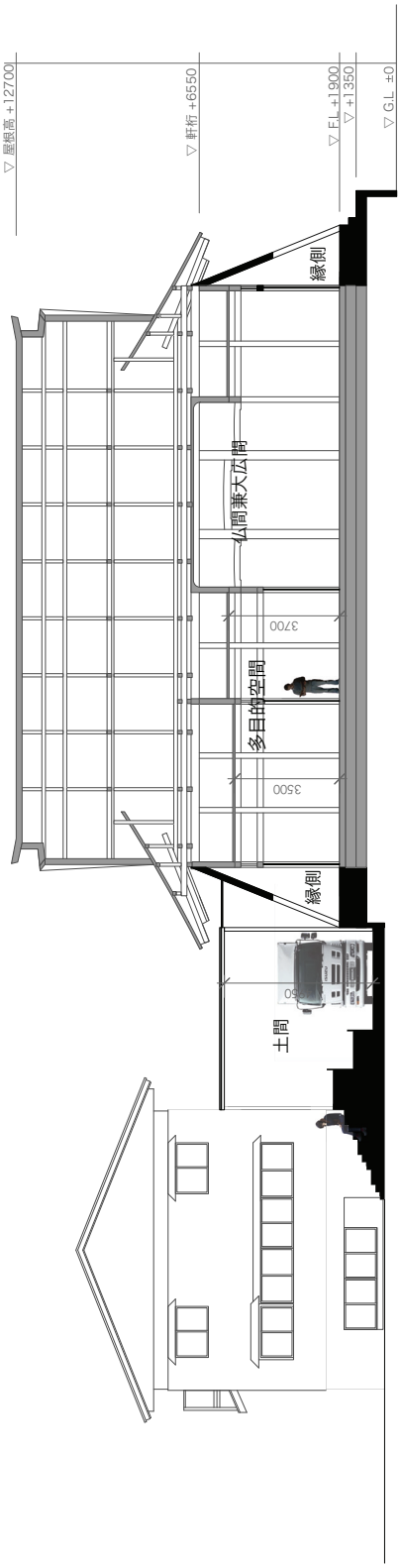
図5. 補強部分の形状のスタディ
左:三角形フレーム　　右:小屋型フレーム

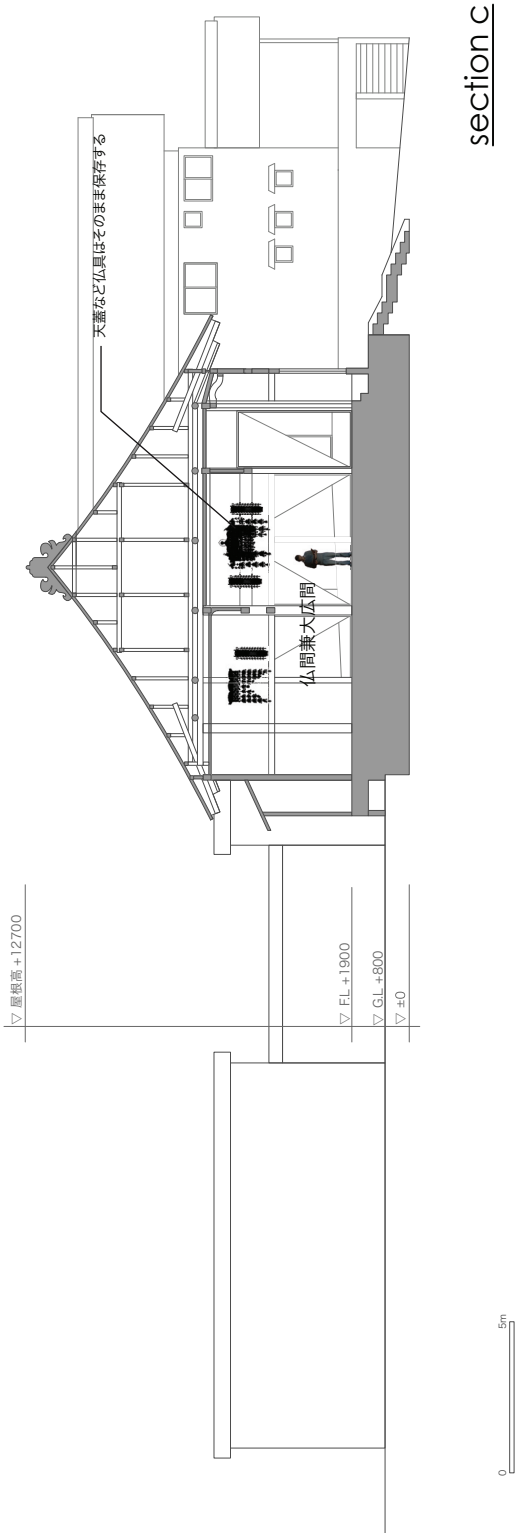

庇空間（増築）
外部空間（増築）
本堂（既存）
庫裏（既存）
水系
樹木
墓所
動線
墓所
野球場
墓所
テニスコート
駐車スペース
駐車場
山門
石柱
N
0
10m

配置計画

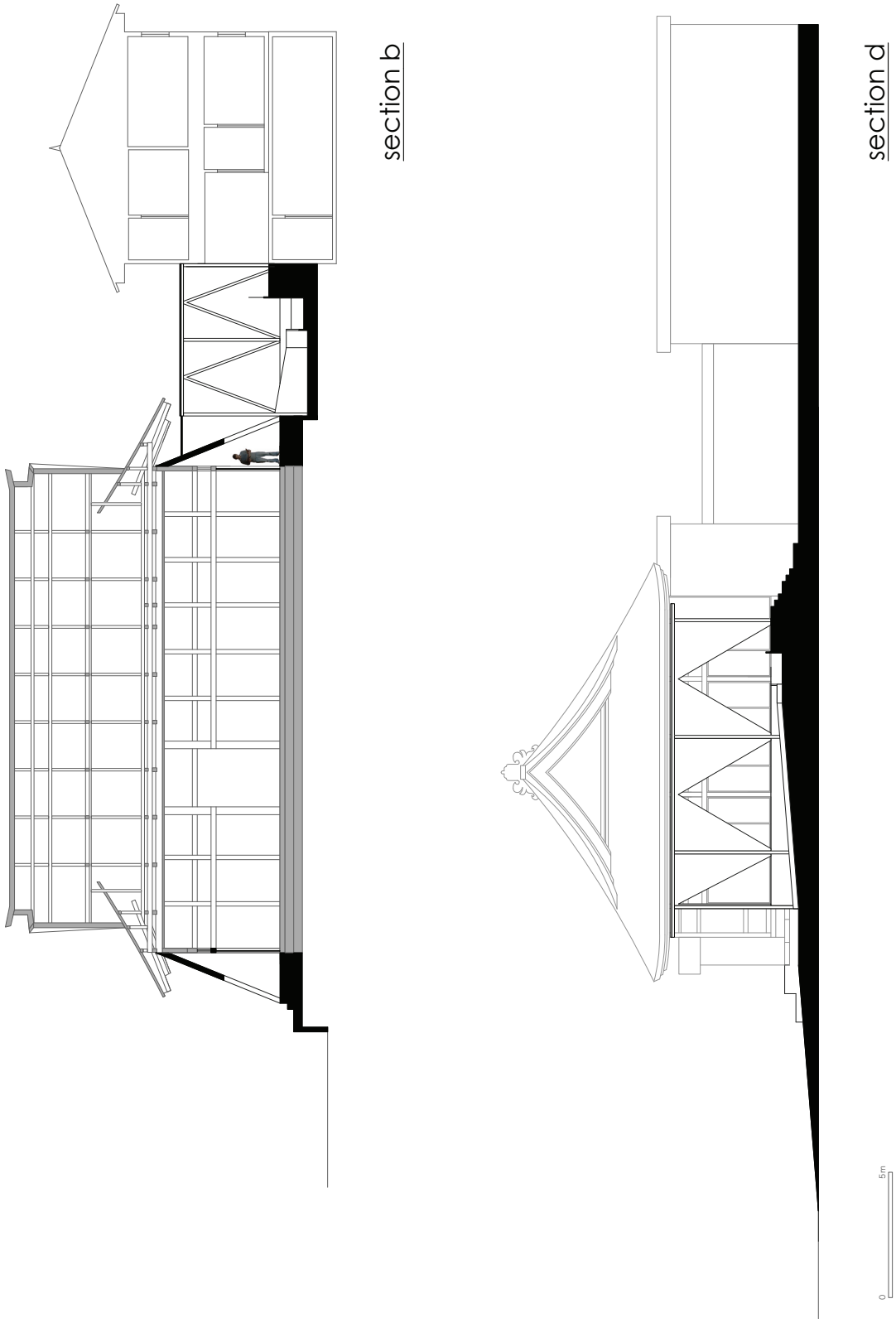

和室
厨房
EV
玄関
土間
渡り廊下
スロープ
風呂
W.C
縁側
多目的空間
大縁
階段席
内陣
仏間兼大広間
位牌段
縁側
a
b
c
d
5960
3060
2900
2000
1820
3630
3720
6350
3720
2000
6080
2000
5450
3720
19240
6350
3720
2000
1250
11380
1210
910
4615
4615
2150
1150
1140
1140
1140
0
5m

平面図　1：250


▽ 屋根高 +12700
▽ 軒桁 +6550
▽ FL +1900
▽ +1350
▽ GL ±0
section a
縁側
仏間兼大広間
3700
多目的空間
3500
縁側
土間
950


天蓋など仏具はそのまま保存する
section c
仏間兼大広間
▽ 屋根高 +12700
▽ FL +1900
▽ GL +800
▽ ±0
0
5m

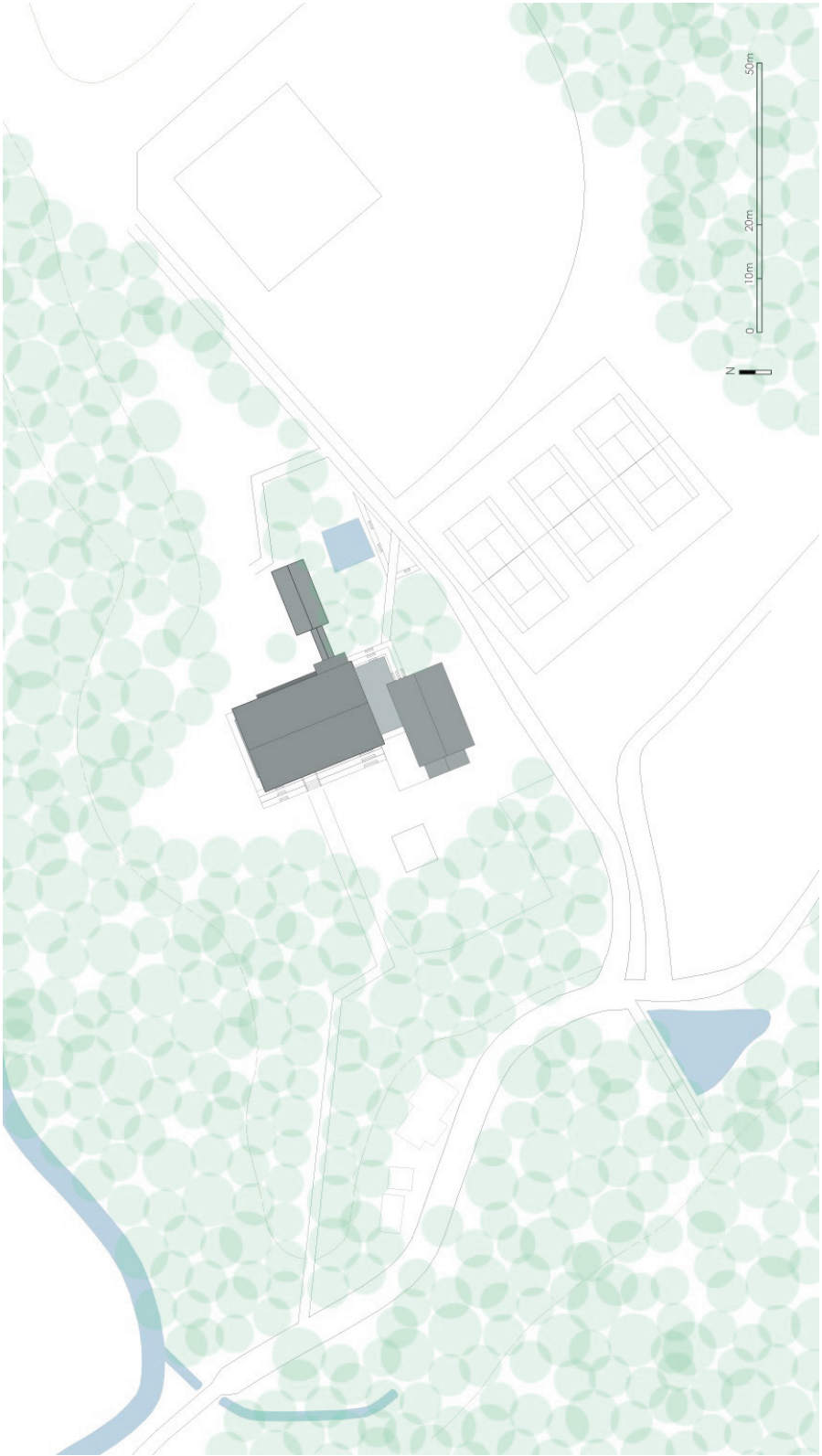
断面図　１：２５０



断面図　１：２５０

断面イメージ

立面イメージ



配置図

4.3　まとめ

人口減少や環境配慮から、これからは都市のコンパクト化政策が進められていくが、その際に歴史的な断続なく地域環境が継承されていくためには、地域独自の景観の保存が、その対策のひとつとして考えられる。そこで、従来の文化的な建造物保存の概念ではなく、用途を転換して建物を使い続けることで周囲の環境を含め継承していく手法が有効であると考える。特に、寺院とその周辺環境は、景観的に重要であり、また広く親しまれてきたことは、既述のとおりである。

寺院の用途転換を行うにあたっての財源や維持管理の仕組みは、宗教法人主体か、自治体や民間主体かという2つのケースを想定したが、これは寺院がどのような存続シナリオをたどるかによる。廃寺となるケースが出てきた場合には、建物と敷地を引き取り、整備し、維持管理する団体が必要となる。この場合、宗教機能は失われているので、市や県が主体となって、公共施設の一部として整備することは可能である。もうひとつのケースは、宗教法人が主体となる場合である。これは、布教活動の他に、公益サービスを展開し、寺院の存続に新たな活路を見出すという、現代寺院のもつ課題に対する回答を兼ねており、現在の寺院の活動や、寺院関係者のヒアリングなどと合わせて考えると、こちらのケースがより実現可能性が高い。

日替わり公共サービスとの連携は、過疎化が進む郊外地域では、特に重要である。従来の移動販売型店舗は、主に道ばたにトラックが停車し、そこに仮説店舗が展開するという形であり、天候の善し悪しに左右されることや狭い店舗面積を考えると、空間の質は高いものではない。そこで、寺院の本堂を移動型サービスの拠点として使用することで、仮説店舗であっても、広い空間で快適に各種サービスを受けることが出来る。

最後に長岡地域の寺院のひとつをモデルケースとして、用途転換の具体的な提案を行った。その際に何を保存し、どこに手を加えるのかという点については、文化財保護的観点ではなく、景観保存及び用途転用の観点から判断を行った。特に、構造部分に関しては、外観に対して最小限の変更でありながら、補強を兼ねる案を検討した。また、雪が降ることも多いため、天候に左右されずに使用できる屋外空間をつくることも、設計のポイントであった。結果としては、本堂と庫裏の間に通り抜けのできる庇空間をつくったが、長岡地域の寺院の伽藍配置は全体的に本堂と庫裏をつなぐ渡り廊下を有していることが多いため、この構成は基本型として展開できるものである。近隣スポットとの連携等の利用形態に関しては、各ケースに対して個別に検討すべき点であった。

第5章　まとめ

5.1　寺院の用途転換—可能性と課題

現代社会において、宗教心や寺檀関係の希薄化が進んでいること、そして寺院はその現状を打開する具体的な打開策を立てられてはいないことが明らかになった。しかし、現代人の寺に対する関心自体が薄れているわけではなく、無縁死などの社会問題から公益事業まで、寺院が担うことを期待されている機能は多いこともわかった。また、過去には寺院が都市の様々な機能を担っていたことや、娯楽や経済活動を通じて庶民の生活に密接に結びついていたことが、現在の幾つかの寺院での都市に対する取り組みに引き継がれている。

宗教的には、その存在意義を問われる一方で、景観としての寺院に対する評価は、時代や年齢に関わらず高いものであった。特に、ランドマークとしての大屋根、都市環境にも貢献している境内林、そして街並の中で特異な奥性は、それぞれがその地固有の風景と関係しながら独自の景観をつくりだしている。

仏教寺院の抱える諸問題と、宗教や葬祭に関する社会問題に対する方策として、そして景観的価値を継承していくという点において、寺院建築を用途転換して周辺環境とともに残していくという提案は、検討の価値があると言える。

長岡地域の寺院の分析からは、寺院が都市の中で余剰ストックとなり得る面積、施設数、遍在性をもつことが明らかになり、一方で、病院や商店などの生活必需施設の分布に偏りが見られた。そこで、寺院建築を用途転換後、日替わり公共サービスとの連携によって、地域に足りない機能を代替することで、各地域の生活の質を向上させることも可能である。

都市のコンパクト化政策が進む中で、寺院の用途転換は、その土地の空間文化を継承していくという点においても、意味のある手法である。

今後の課題としては、誰が主体となって取り組むか、維持管理や経費をどうするか、といった実務的な面での具体的計画をたてることが、挙げられる。また、寺院の規模や立地条件、檀家数など、各寺院によって条件が異なるので、用途転換後の利用形態に関しても、それぞれのケースを個別に検討していく必要がある。

参考文献・資料

参考文献

■建物の保存改修、用途転用に関して

・ICOMOS「記念建造物および遺跡の保全と修復のための国際憲章(日本イコモス国内委員会訳)」、1964
・独立行政法人文化研究所奈良文化財研究所「木造建造物の保存修復のあり方と手法」、2003
・財団法人文化財建造物保存技術協会編「修復の手帳」、2001
・財団法人文化財建造物保存技術協会編「文化財建造物保存事業主任技術者研究会報告書第16号」、2002
・小林克弘, 三田村哲哉, 橘高義典, 鳥海基樹編「世界のコンバージョン建築」鹿島出版社、2008. 4
・椎橋武史・井上めぐみ・小林克弘・黒橋秀治・木下央・佐々木章行・三田村哲哉・千賀順・小川仁「イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その1):1990年以降のイタリアの建築雑誌に見られる傾向」、「イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その2) ： 産業系施設からの転用におけるデザイン手法」、「イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その3) ： 居住系施設からの転用におけるデザイン手法」、「イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その4) ： 公共系施設からの転用におけるデザイン手法」、2004. 8
・小林克弘・黒川直樹・木下央・三田村哲哉・椎橋武史・遠藤広基・中西康嵩・沢田聡・福中海人・宮部貴寛・谷泰人「アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その1) ： 近年の傾向および事務所・居住系施設からの転用におけるデザイン手法」、「アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その2) ： 産業系施設からの転用におけるデザイン手法」、「アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その3):公共系施設からの転用におけるデザイン手法」、「アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その4) ： 埠頭施設の再利用最新事例にみる設計計画の新動向」、2007
・谷泰人・小林克弘・三田村　哲哉・角野　渉「ドイツにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 ： 産業系施設、公共系施設からの転用におけるデザイン手法」、2008
・小林克弘・三田村哲哉・谷泰人・角野渉「フィンランドにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 ： 産業系施設からの転用におけるデザイン手法」、2008
・首都大学東京小林克弘研究室「コンバージョン・デザインの魅力」『SD 2005』p69-100
・かやぶき音楽堂ホームページ(http://www.eonet.ne.jp/~kayabuki/index02/indexJ02.htm)
・『日経新聞』2011年1月15日夕刊「まさかの千客万来・4」
・Our Property.co.uk. Buying a Church Conversion (http://www.ourproperty.co.uk/guides/buying_a_church_conversion.html)

■宗教社会学
・文化庁編「宗教年鑑 平成20年版」2009．12
・文部科学省ホームページ「宗教統計調査統計表一覧」(http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061246)
・NHK放送文化研究所、第8回「日本人の意識・2008」調査、2008
・『読売新聞』2008年5月30日朝刊、宗教意識調査「日本人」
・石井研士「データブック 現代日本人の宗教 増補改訂版」、新曜社、2008．2
・木村雅文「現代日本人と“家の宗教” —JGSS-2000/2001からのデータを中心として—」、2003
・第一生命経済研究所「日常生活における宗教的行動と意識調査」、2006．6
・中島隆信「お寺の経済学」、東洋経済新報社、2005．02
・全日本仏教会、全日本仏教会機関誌「全仏」2010年11月号
・朝日新聞出版社『AERA No.45』2010年10月11日、p68．特集「お寺はもういらない」
・葬儀社 富士の華ホームページ(http://fujinohana365.com/)
・NHKスペシャル「無縁社会～無縁死3万2千人の衝撃～」(http://www.nhk.or.jp/special/onair/100131.html)
・『朝日新聞』、2009年7月31日朝刊、「お坊さんも派遣の時代」

■都市史、社会史と寺院
・高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編「図集 日本都市史」、東京大学出版会、1993
・日本建築学会編「日本建築史図集」、彰国社、1963
・鈴木博之・石山修武・伊藤毅・山岸常人(編)「シリーズ都市・建築・歴史 3 中世的空間と儀礼」東京大学出版会 、2006
・鈴木博之・石山修武・伊藤毅・山岸常人(編)「シリーズ都市・建築・歴史 6 都市文化の成熟」、東京大学出版会、2006
・加藤秀俊「都市と娯楽」、鹿島研究所出版会、1969
・奈良国立文化研究所「近世社寺建築の研究 第一号」、1988
・都市デザイン研究体編「復刻版 日本の広場」、彰国社、2009．4
・沢村仁・三浦正幸・平井聖・藤井恵介・高橋康夫・吉田純一「新建築学大系〈2〉日本建築史」彰国社、1999．10
・寺院建築を考える会編「寺院建築大図鑑 第1巻」、国書刊行会、1994
・松本圭介「東大卒僧侶の「お坊さん革命」—お寺は最高のエンタメ発信地」講談社プラスアルファ新書、2010

■景観論
・NHK放送文化研究所「日本人の意識 2008」、2008．6
・斎藤幸雄他著、市古 夏生・ 鈴木 健一 校訂、「新訂 江戸名所図会」、筑摩書房、2009
・宮下真紀子「地域認識としての景観特性に関する研究―東京都内景観百選を対象にして―」、2006

■長岡地域に関する統計資料
・長岡市「長岡市統計年鑑（平成18年度）」
・長岡市ホームページ、「観光」（http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/rekishi/）
・新潟県ホームページ「観光・イベント　越後長岡百景の紹介」（http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka_kikaku/hyakkei.html）
・文部科学省ホームページ、宗教統計調査 統計表一覧　都道府県別データ（http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061246）
・伊藤友隆「ストック、フロー別ＣＯ２評価システムを用いた低炭素都市像の研究」、2008
・新潟県ホームページ、新潟県商業振興発表資料「新潟県大規模小売店舗（店舗面積1000㎡超）一覧」、2010．10
・長岡市ホームページ、公共施設一覧「新潟県 体育館（競技面積950㎡超）一覧」
・ハイブ長岡ホームページ（http://www.hive.or.jp/main-link.htm）
・長岡観光コンベンション協会ホームページ（http://www.nagaoka-navi.or.jp/）
・長岡市郷土史料館「慶応年間 長岡城下町絵図」

■寺院建築の用途転用
・新潟県教育委員会編「新潟県の近世社寺建築　新潟県近世社寺建築緊急調査報告書」
・東京大学藤井恵介研究室「藤井新潟県の近世社寺建築調査ー龍穏院各種資料」

読売新聞宗教意識調査 （2008年5月30日）

Q.あなたは、何か宗教を信じていますか

A.	信じている	26.1%
	信じていない	71.9%
	答えない	2.1%

Q.（前問で「信じている」と回答した人のみ）あなたが宗教を信じていると感じる理由を、次の中から、あればいくつでもあげてください。

A.	心の安らぎ、拠り所が欲しいから	44.5%
	教えの内容にひかれたから	20.0%
	教祖や宗教家にひかれたから	3.3%
	身の回りで良くないことがあったから	5.2%
	ご利益がありそうだから	11.5%
	自分の家で信じているから	52.8%
	知人などに誘われたから	1.5%
	その他	3.5%
	答えない	1.5%

Q.次の宗教に関することの中で、あなたがしていることや、したことがあれば、いくつでもあげてください。

A.	宗教的な行として、お勤め、ミサ、修行、布教などをする	6.5%
	しばしば家の仏壇や神棚に手をあわせる	56.7%
	教典や聖書などを折りにふれて読む	8.1%
	写経をする	4.0%
	盆や彼岸などにお墓参りをする	78.3%
	厄払いをしに行く	34.2%
	身の安全、商売繁盛、入試合格などの祈願をしに行く	37.9%
	子供のお宮参りや七五三のお参りに行く	50.6%
	お守りやお札などを身につける	33.2%
	神社や寺などの近くを通りかかったときにお参りをする	24.1%
	正月に初詣でに行く	73.1%
	座禅など、瞑想して精神統一をはかる	2.9%
	神社や寺、教会などに寄付をする	11.8%
	その他	0.2%
	どれもしていない、何もしていない	3.9%
	答えない	0.5%

Q.あなたは、日本人は宗教心が薄いと思いますか、そうは思いませんか

A.	そう思う	45.1%
	そうは思わない	48.9%
	答えない	1.5%

Q.あなたは、自分の先祖を敬う気持ちを持っていますか、持っていませんか。

A.	持っている	94.0%
	持っていない	4.5%
	答えない	1.5%

Q. あなたは、今の宗教団体について、次のようなことを感じたことがありますか。あれば、いくつでもあげてください。

A.	人の不安をあおるなど強引な布教をする	42.5%
	尊敬できる宗教家が少ない	16.4%
	人道や福祉等での社会貢献が足りない	14.6%
	どういう活動をしているのかわからない	46.8%
	高額のお布施や寄付を集めている	36.0%
	宗教とは無関係なビジネスに熱心だ	22.4%
	政治とのつながりが強い	28.6%
	宗派間などでの対立が多い	13.3%
	とくにない	19.0%
	答えない	1.4%

Q. あなたは、自分の葬式や墓をどうしてほしいと思いますか。順にお答えください。

Q. 葬式は、形式にとらわれない無宗教の儀式にしてほしい

A.	そう思う	39.1%
	そうは思わない	48.5%
	葬式はしなくてよい	8.1%
	答えない	4.3%

Q. 墓はどうしてほしいと思いますか。次の中から、1つだけあげてください。

A.	先祖代々の墓に入る	56.1%
	今の家族だけの墓に入る	23.6%
	自分一人だけの墓に入る	1.4%
	多くの人と共同の墓に入る	1.6%
	散骨する	7.9%
	その他	0.2%
	特に無い	7.5%
	答えない	1.7%

Q. 2006年に成立した改正教育基本法では、宗教に関する一般的な教養を尊重することが盛り込まれました。あなたは、学校では、宗教について、どのようなことを教えるのがよいと思いますか。次の中から、あれば、いくつでもあげてください。

A.	主な宗教の歴史	30.6%
	世界の宗教の分布	19.3%
	主な宗教の教えの内容	19.9%
	宗教の意義	21.3%
	ほかの宗教を信じる人への寛容な気持ち	20.7%
	命や自然を尊重する気持ち	70.8%
	その他	0.3%
	宗教について教えるべきではない	6.9%

＜調査方法＞

調査日時:	5月17日、18日
対象者:	全国の有権者3000人（250地点、層化二段階無作為抽出法）
実施方法	個別訪問面接聴取法
有効回収数	1837人（回収率61.2%）
回答者内訳	男46%、女54%／大都市22%、中核都市19%、中都市24%、小都市23%、町村12%

-

第８回「日本人の意識・2008」調査　結果の概要

調査目的：５年ごとに、同じ質問、同じ方法で世論調査を重ねることによって、日本人の生活や社会についての意見の動きをとらえる。1973 年石油ショック直前の第１回調査から数えて今回が８回目となる。
調査時期：2008 年６月 28 日（土）、29 日（日）
調査相手：全国の 16 歳以上の国民 5,400 人（層化無作為二段抽出）
調査方法：個人面接法
調査有効数（率）：3,103 人（57.5％）

宗教的行動

第27問　宗教とか信仰とかに関係すると思われることがらで、あなたがおこなっているものがありますか。ありましたら、リストの中からいくつでもあげてください。（複数回答）

	（略称）	'73年	'78年	'83年	'88年	'93年	'98年	'03年	'08年
ア．ふだんから、礼拝、お勤め、修行、布教など宗教的なおこないをしている	礼拝・布教	15.4	16.0	17.0 >	14.9 >	13.2 >	11.4	12.4	12.3 >
イ．おりにふれ、お祈りやお勤めをしている	お祈り	16.6	15.8	15.8 >	14.2	14.1	12.7	12.0	12.4 >
ウ．年に１、２回程度は墓参りをしている	墓参り	62.0 <	64.8 <	67.7 >	65.0 <	69.7 >	67.5	67.6	68.4 <
エ．聖書・経典など宗教関係の本を、おりにふれ読んでいる	聖書・経典	10.7	10.6	10.4 >	8.9 >	7.4	6.8	6.4	5.4 >
オ．この１、２年の間に、身の安全や商売繁盛、入試合格などを、祈願しにいったことがある	祈願	23.0 <	31.2	31.6	32.2 >	28.4	29.1 <	31.3	29.7 <
カ．お守りやおふだなど、魔よけや縁起ものを自分の身のまわりにおいている	お守り・おふだ	30.6 <	34.4	36.2	34.6	32.8 >	30.6 <	35.0	34.9 <
キ．この１、２年の間に、おみくじを引いたり、易や占いをしてもらったことがある	おみくじ・占い	19.2 <	22.8	21.9	20.5	22.2	22.7	23.4	25.3 <
ク．宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは、何もおこなっていない	していない	15.4 >	11.7 >	9.6	9.9	8.8 <	11.4	10.2 >	8.7 >
ケ．その他		0.2	0.3	0.4	0.5	0.4 <	0.8	0.6	0.7 <
コ．無回答	NA	1.4	1.8 >	1.0 <	1.9 <	2.6 >	1.7 <	3.0	3.3 <

信仰・信心

第28問　また、宗教とか信仰とかに関係すると思われることがらで、あなたが信じているものがありますか。もしあれば、リストの中からいくつでもあげてください。（複数回答）

	（略称）								
ア．神	神	32.5 <	37.0	38.9 >	36.0	35.2 >	31.5	30.9	32.5
イ．仏	仏	41.6 <	44.8	43.8	44.6	44.1 >	38.7	38.6 <	42.2
ウ．聖書や経典などの教え	聖書・経典の教え	9.7	9.3	8.9 >	7.5	6.4	6.6	6.4	6.4 >
エ．あの世、来世	あの世	6.6 <	9.0 <	11.7	11.9 <	13.4 >	9.7	10.9 <	14.6 <
オ．奇跡	奇跡	12.8 <	14.9	15.1	14.4 >	12.6 <	14.3	15.3 <	17.5 <
カ．お守りやおふだなどの力	お守り・おふだの力	13.6 <	15.8	15.5	14.4	15.8 >	13.7	15.0 <	17.4 <
キ．易や占い	易・占い	6.0 <	8.3	8.3 >	7.0	5.9	6.0 <	7.4	6.6
ク．宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは、何も信じていない	信じていない	30.4 >	23.9	23.3 <	25.8	24.3 <	29.5 >	25.6	23.5 >
ケ．その他		0.2	0.3 <	0.6	0.4 <	0.8 <	1.4 >	0.9	1.3 <
コ．わからない、無回答	DK，NA	5.3	5.8 >	4.3 <	5.4 <	6.8	5.8 <	8.0	7.9 <

-

ナショナリズム

第34問　次に、日本とか日本人とかについて、あなたがお感じになっていることをいくつかおたずねします。リストのＡからＦまでの、１つ１つについて「そう思う」か「そうは思わない」かをお答えください。

Ｃ．日本の古い寺や民家をみると、非常に親しみを感じる

１．そう思う	87.5	88.4 >	86.7 >	83.8	83.1	83.5 <	85.4	86.9
２．そうは思わない	9.3	8.7 <	10.5 <	12.8	13.2	13.6 >	11.2	10.0
３．わからない、無回答	3.2	2.9	2.8	3.4	3.7	3.0	3.4	3.2

調査の概要

	調査日	調査相手	調査方法	有効数（率）
第１回	1973（昭和48）年 ６月16日（土） 17日（日） 18日（月）	全国16歳以上の 国民5,436人 （302地点×18人）	個人面接法	4,243人 （78.1%）
第２回	1978（昭和53）年 ６月24日（土） 25日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	4,240人 （78.5%）
第３回	1983（昭和58）年 ９月３日（土） ４日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	4,064人 （75.3%）
第４回	1988（昭和63）年 ６月25日（土） 26日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	3,853人 （71.4%）
第５回	1993（平成５）年 10月２日（土） ３日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	3,814人 （70.6%）
第６回	1998（平成10）年 10月17日（土） 18日（日） 19日（月） 20日（火） （台風のため日程拡大）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	3,622人 （67.1%）
第７回	2003（平成15）年 ６月28日（土） 29日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	3,319人 （61.5%）
第８回	2008（平成20）年 ６月28日（土） 29日（日）	全国16歳以上の 国民5,400人 （450地点×12人）	個人面接法	3,103人 （57.5%）

謝辞

本研究をまとめるにあたっては、多くの方のお力添えを頂きました。

ヨーロッパでコンバージョン建築事例に興味をもったことが、寺院建築の用途転換というテーマに取り組むきっかけでした。ファイバーシティ長岡プロジェクトの中で、このテーマに取り組む機会をくださった大野先生、日高さん、和田さんには、プロジェクトを通じて、熱心なご指導を賜りました。また、副指導教員の清家剛先生にも、ご指導、ご助言を賜りました。

腰原幹雄先生には、寺院の用途転換の設計にあたり、構造のエスキスをしていただきました。藤井恵介先生には、新潟県の社寺建築調査時の資料をご提供いただきました。

長岡市の寺院を調査するにあたっては、長岡市都市整備部まちなか整備課の田村氏には、数日に渡る寺院の現況調査及びヒアリングに同行していただいたほか、現地での調査や資料収集にあたり、全面的な協力を賜りました。そして、普済寺の金子住職をはじめ、徳聖時の中村住職、西楽寺の春日住職、西願寺の上原住職には、貴重な時間を割いていただき、ヒアリング及び研究に対するご助言を賜りました。龍穏院の春日住職には、ヒアリングの協力を頂いた他、寺院建築の用途転換のモデルケースの提案を了承していただき、図面の提供などの協力を賜りました。

研究室の皆様には、ファイバーシティ長岡プロジェクトを通じ、有益な助言を頂きました。折に触れて、助言や激励をくれた友人や家族にも感謝の念が尽きません。

ご協力いただいた皆様に深謝の意を表します。

2011年1月

阿礼めぐみ